



○国内最大級の棚田を地域住民とオーナー（都市住民）で保全し、行政がサポート。3者連携で取り組む。

### 基本情報

- 所在地：三重県熊野市紀和町丸山くまのし きわちよう まるやま  
(熊野市駅から車で35分)
- 枚数：約1,340枚
- 耕作面積（耕作率）：約7.2ha（約80%）
- 平均勾配：1/5
- 団体：丸山千枚田保存会
- 棚田オーナー制：105組(H8開始、R2時点)
- 選定：棚田百選(H11)、立ち上がる農村(H16)、ユネスコプロジェクト未来遺産(H24)
- 活動資金（R1）：

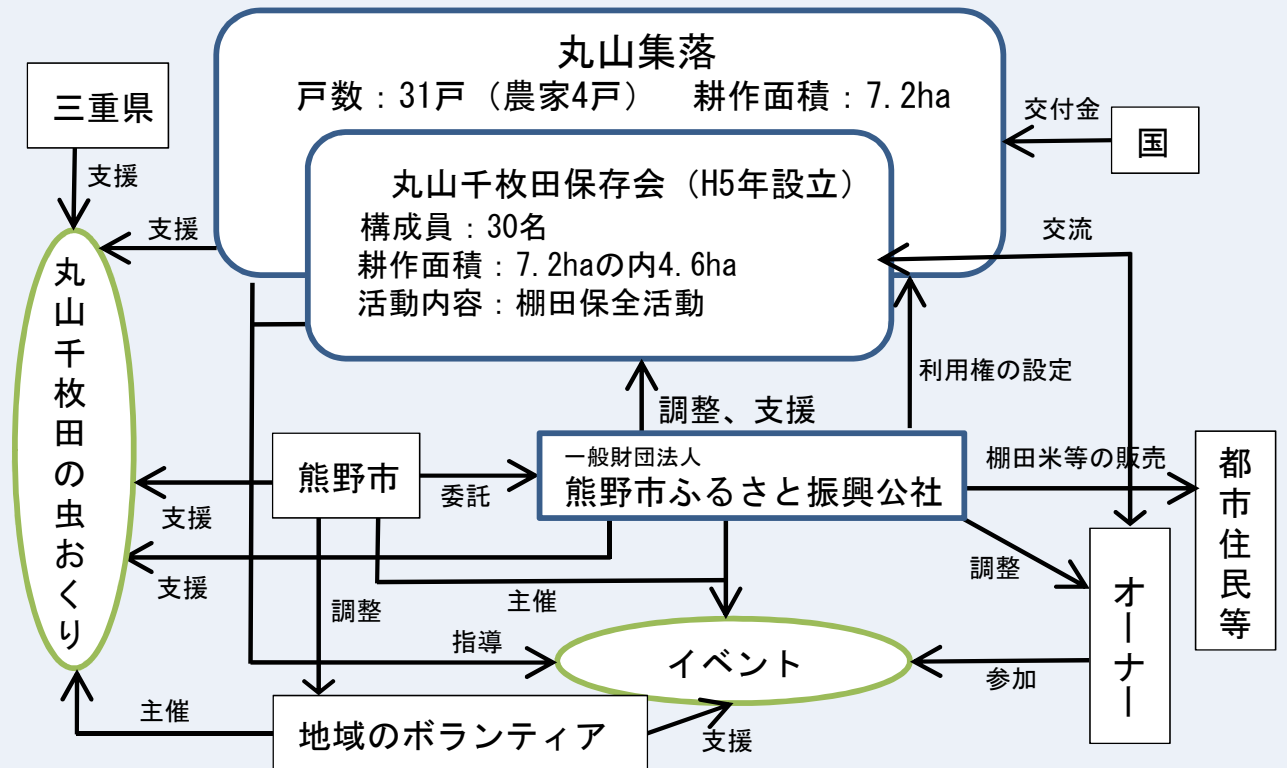
補助金	国	3%
	■中山間直払 □多面支払 □鳥獣交付金、□その他	
	熊野市 (代表的な事業名) 丸山千枚田保全事業	74%
活動収入	米・加工品の販売	7%
	棚田オーナー	16%
	イベント	-
	レストラン、農泊	-
	その他（企業からの助成等代表的な内容）	-



### 地区の特徴、取組効果

- 高低差160mと急峻な地形に1,340枚の小さな田んぼが広がり、一望できる枚数が多いことが特徴。後世に残すため、H6に全国初の千枚田条例を制定（旧紀和町）。
- 地域住民（丸山千枚田保存会等）、行政（熊野市、ふるさと振興公社）、外部サポーター（棚田オーナー等）の3者が連携し、保全活動を実施。棚田オーナー制度はH8から継続し、県内外から集まる650人（R2）のオーナーと交流。
- H16に復活した火と音で害虫を追い払う農耕行事「虫おくり」に毎年1,000人前後の観光客が訪れている。

### 棚田保全をめぐる関係図



# 【事例】地域住民、行政、都市住民の協働により、皆で残そう！10年、100年千枚田

S30以降の過疎化、高齢化により、荒廃地が急増。400年前に2,200枚あった棚田は500枚近くまで減少。

## ☆住民の熱い想いと地域の結束がカギ

住民の「何とかしたい」との想いが地域リーダーの熱意とリーダーシップに引き寄せられて結束し、行政の積極的支援と相まって活動活発化。



復田作業

## ☆受入環境整備がカギ

来訪者の満足度を上げる取組を検討。

山村振興等農林漁業特別対策事業を活用して「千枚田荘」を新築（現在は休業）。H11に熊野市が千枚田オートキャンプ場を整備。

近年では、体験学習で保存会から指導を受けた地元中学生が、オーナーに農作業を指導。

## きっかけ

棚田を残したい地域住民の想いと、観光資源に活用したい行政の想いが一致

### Step 1 (H5～)

#### 棚田復元

- 丸山地区全戸を会員とする「丸山千枚田保存会」を結成。町から整備委託費を受け、農家が提供した機械を用いて復元作業に従事。
- 町は「紀和町ふるさと公社」（現在の熊野市ふるさと振興公社）を設立し、復元をバックアップ。公社は保存会会員に作業賃金を支払う。
- H5～H8の4年間で約800枚を復元。

### Step 2 (H6)

#### 条例制定

- 後世に残すため、全国初の千枚田条例を制定。
- 関係者の責務、保護区域の指定、財政支援等を規定。

### Step 3 (H7～)

#### 宿泊施設・展望台を整備

- 休憩所とトイレを新築し、訪れやすい環境を整備。
- 宿泊施設を整備し、遠方のオーナー獲得と長期滞在できる観光集客の増加を図る。
- 山の中腹に展望台を整備し、圧倒的なスケールの眺望で丸山千枚田の魅力をアップ。

### Step 4 (H8～)

#### 棚田オーナー制度の開始

- 都市住民との交流を深めて「みんなで守り、みんなで残そう」をモットーに開始。
- 農作業体験をできるイベントを通年で開催。
- 現在に至るまで継続（R2年度までで累計2,836組）



はさかけ



虫おくり



オーナーによる稲刈り

復元した棚田を維持するには人手が必要。

## ☆伝統行事復活がカギ

観光客を増やすことがオーナー確保ややりがいにつながる。  
丸山千枚田虫おくり支援事業費（市予算）を活用

保存会会員を地域外に拡大（H20～）。

### Step 5 (H11)

#### 支援の多角化

- 来訪できない消費者から棚田の維持管理協力金を募る「丸山千枚田を守る会」を発足。会員には棚田米と機関誌を送付。

## 将来に向けて

- 水源確保のための森林環境整備
- エレコム(株)の社員と熊野市民との交流促進
- 水車の復活等の景観整備

## 今後の展望

## いま (R2)

- IT機器メーカーのエレコム(株)※から寄付の申し出があり、同社と熊野市が棚田保全の連携協定を締結（R2～R6）  
※社長が熊野市出身

### Step 8 (H25～)

#### 大学生の参加

- 相模女子大学の学生が、保全活動に参画。
- 現地での活動のほか、学園祭でのPRや公開講座の開催等を通して、千枚田の取組みを支援。

### Step 7 (H21～)

#### どぶろく販売

- 千枚田米のブランド力向上のため「なめらかどぶろく」を販売。
- 伝統製法を引き継ぐ杜氏が公社職員として廃校小学校の給食室を改築し、製造。

### Step 6 (H16～)

#### 虫おくり復活

- S28に消滅した火と音で害虫を追い払う農耕行事を復活し、棚田に1340本のキャンドルを灯す祭りを開催。
- 毎年1000人前後の観光客が参加。